

# Topics ■トピックス [学内情報]

体育会  
アメリカンフットボール部  
特集

「関西大学カイザーズ」が関西学生アメリカンフットボールリーグ完全優勝・甲子園ボウル優勝・ライスボウル準優勝という偉業を達成

## 常に全力全開！ 緩むことなく「迷ったら攻める」



●監督 (関大1高教諭) 磯和 雅敏氏  
●主将 (工学部4年次生) 大館 賢二郎 さん  
●コーチ (スポーツ振興課・大学職員) 松浦 雅彦氏

体育会アメリカンフットボール部の「関西大学カイザーズ」が、昨年の関西学生リーグで2強と言われる関西学院大学、立命館大学を倒し、見事完全優勝。続く甲子園ボウルでは、春の定期戦で完敗した東日本代表・法政大学への雪辱を果たした。そして今年1月3日、アメフト日本一を決定する日本選手権・第63回ライスボウルに出場し、社会人代表の「鹿島ディアーズ」と対戦。今年度にかけての思いやライスボウル出場に対する取り組みなど、磯和監督、松浦コーチ、大館主将の3人に話を聞いた。

倒し、チームに勢いがついてからは「より激しく、より速く、よりスマートに」を意識したチーム作りを進めました。大館 僕たちも「より激しく、より速く、よりスマートに」を必死にやり、それができたからこそ結果に結びついたのだと思います。また、迷って守ることは最大のミスと教えられていて、チームには「迷ったら攻める」と言い続けました。——甲子園ボウルで62季ぶりに大学の頂点に立ったわけですが、このような躍進を遂げることができた理由は？

磯和 まず一番は運が良かった。実力的には我々よりも強いチームがあったかもしれません。運が良くても、普段努力していなければそれを掴むことはできず、逆に、実力があっても運がなければ勝利を掴むことはできません。今年度、特別に新しい取り組みをしたわけではなく、60年以上続く先輩方の活動、ノウハウが蓄積され、花開いたのだと思います。また、大館君がチームにいろいろな言葉をかけ、その言葉やスローガンを大事にし、一年を通じてチームで目標を共有し続けられたことは、非常に評価できることです。

大館 8月の富山合宿で、毎晩4年次生だけのミーティング時間を設け、朝の4時までどんなことでもとことん話し合いました。このことで4年次生がひとつになることができ、それが力になったのではないかと思います。

——社会人相手のライスボウル。鹿島ディアーズに対して、どのような心意気で挑みましたか？

磯和 相手は素晴らしいチームなので、「点数は入れられてもしょうがない。それで気持ちが切れてしまったり、下を向くのではなく、気持ちを入れ直して次は止めに行こう！」と指導しました。試合前には、「自分たちのフットボールを、今までやってきたこと全てを出せるような試合を」と声をかけました。

松浦 鹿島とは戦力差も経験差もあり、勝ちにどれだけ執着でき



るか、今年度の最終を締めくくる試合として、僕らの生き様をどれだけ周りの人に提示できるかがポイントでした。「迷ったら攻める」に踏み出せるよう、チーム共有の意識作りに取り組みました。——ライスボウルではラスト4秒で逆転され、惜しくも準優勝に終わりましたが、ここまで突き進めた要因は？

松浦 今年度のチームの良い点として、前半勝っていても最後まで緩まないというのがあります。全体を通して、関西学生リーグで一区切り、甲子園ボウルで一区切りというのではなく、常により高いところを目指していたことが大きいでしょう。

大館 ここから社会人としての底力が出てくるはずだと思ひ、ゲームオーバーの笛が鳴るまで、攻め続けました。前半ちょっと勝ち越したからといって、勝ったとは思っていなかったことでここまで来ることができたのかもしれない。

——その他、今年度のチームに対し、素晴らしいと思ったことは？

松浦 コーチとして嬉しかったのは、QB原口君が自身の活躍よりもチームを勝たせるということを体現してくれ、甲子園ボ

ウルで228ヤードのランという最高のパフォーマンスを發揮してくれたことです。また、RBに転向した藤森君が、チームの勝敗を背負うプレッシャーのなかで全体をひっぱるプレーヤーへと成長し、名城大との試合で独走タッチダウンというビッグプレイを見せてくれた。その勇気は称賛に値すると思います。——今後、アメフトを通してどのような学生を育てたいと思われませんか？

磯和 関大でアメフトに携わった学生は、アメフトだけでなく、社会に出てから、一社会人として立派な人と言われる中身の伴った人間に育てたいです。

松浦 支援してくださる皆さんに対し、感謝の気持ちを持つ人間へと育てていかなくてはと思います。それと同時に、関大カイザーズの組織自体を、選手が「日本一になりたい」という目標を持ち、全力で挑戦できる場に…そして、選手が「目標は達成できる」と思える場にしたいですね。

——関西大学第一中学校、第一高等学校、関西大学で過ごした経験はどういうものでしたか？後輩にメッセージを。

大館 1年間主将を経験し、感謝しています。大学4年間は、楽しいこと、辛いこと、泣きたいこと…本当にいろんなことがありました。人間としても随分成長できたなと思います。来年度の4年次生は人数が多いのでひとつになるのが大変だと思うけれど、話し合いやご飯を食べに行くなど、できることはあると思います。チームが勝つためには自分がどうすればいいのかを考えて、頑張ってください。



### ●関西大学カイザーズ今期成績

	月・日	勝敗	対戦相手
関西学生リーグ	8・29	56 ○ 13	京都大学
	9・12	12 ○ 0	神戸大学
	26	17 ○ 13	関西学院大学
	10・12	14 ○ 7	立命館大学
	24	59 ○ 10	近畿大学
	11・8	46 ○ 0	同志社大学
西日本代表校決定戦	21	44 ○ 7	甲南大学
	29	42 ○ 6	名城大学
	12・13	50 ○ 38	法政大学
ライスボウル	1・3	16 ● 19	鹿島



——今年度のスローガン「覚悟～勝ちたいんや～」にかけた思いを聞かせてください。

大館主将 「覚悟」には、日本一になるための覚悟、そのための練習に対する覚悟…と、いろいろな意味合いがあります。どんな相手に対しても、常に勝ちたいという気持ちを持って挑めば、必ずいい結果に繋がるといふ思いでスローガンに掲げました。

——昨年度5位から一気に優勝へと駆け上がった関西学生リーグ。どのようなチーム作りやプレイを意識しましたか？

磯和監督 最初の4戦で非常に強いチームと対戦するうえ、甲子園ボウルの日程が例年より繰り上がり、例年より早いシーズンインとなりました。そのため、早い段階でのチーム作りが必要であり、8月上旬の富山合宿より練習を開始しました。選手には、初戦から勝ちを意識し、100%の力が出し切れるよう話しました。

松浦コーチ 「スピード、激しさ、スマートさ」を意識し、ランプレイではなく、クリーンなプレイを心がけるよう指導しました。この3つはどんな相手に対しても追求できることであり、この中から相手に勝れるものを探し、強調し、試合で発揮することにより、勝利が得られると考えたからです。関学、立命を